

令和7年5月 長崎港活性化対策特別委員会資料

長崎港周辺整備の経過と今後の計画について

目次	ページ
1 長崎港の概要	…… 2～ 9
2 長崎港周辺整備の経過	……10～25
3 今後の計画	……26～37

令和7年5月
まちづくり部

目次

- 1 長崎港の概要
- 2 長崎港周辺整備の経過
- 3 今後の計画

1 長崎港の概要

(1) 県内の港湾の位置図

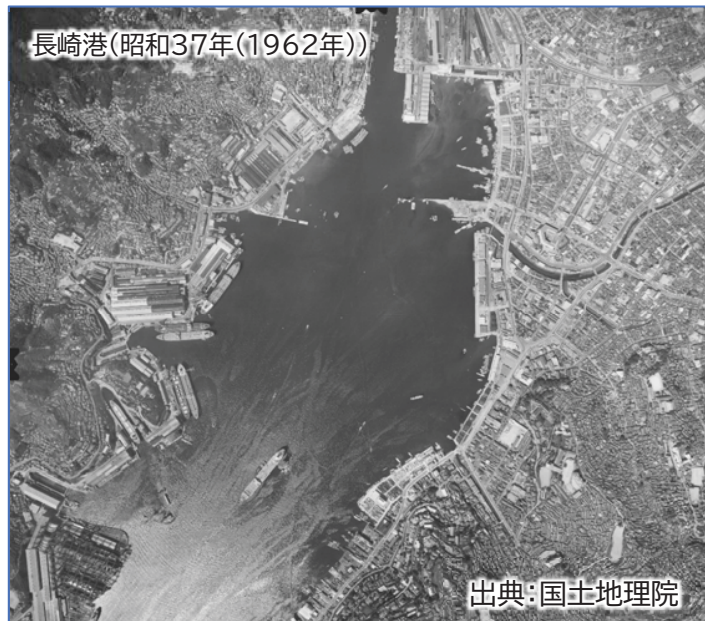


出典：長崎県の港湾2022(パンフレット)

1 長崎港の概要

(2) 長崎港の概要

- ・ 1571年に開港、1951年に重要港湾指定（全国で102港湾が指定）
- ・ 外港部：主に基幹産業である造船業などの工場が立地する生産の拠点
- ・ 内港部：五島列島などの離島との人流、物流の拠点
国際観光船の受入や憩いの広場など賑わいの拠点
- ・ 港湾取扱い貨物量：約240万トン
主要な貨物品目：フェリー貨物、石油製品、砂利・砂
- ・ 港湾管理者：長崎県



1 長崎港の概要

(3) 長崎港全景・ゾーニング



1 長崎港の概要

(4) 航路一覧



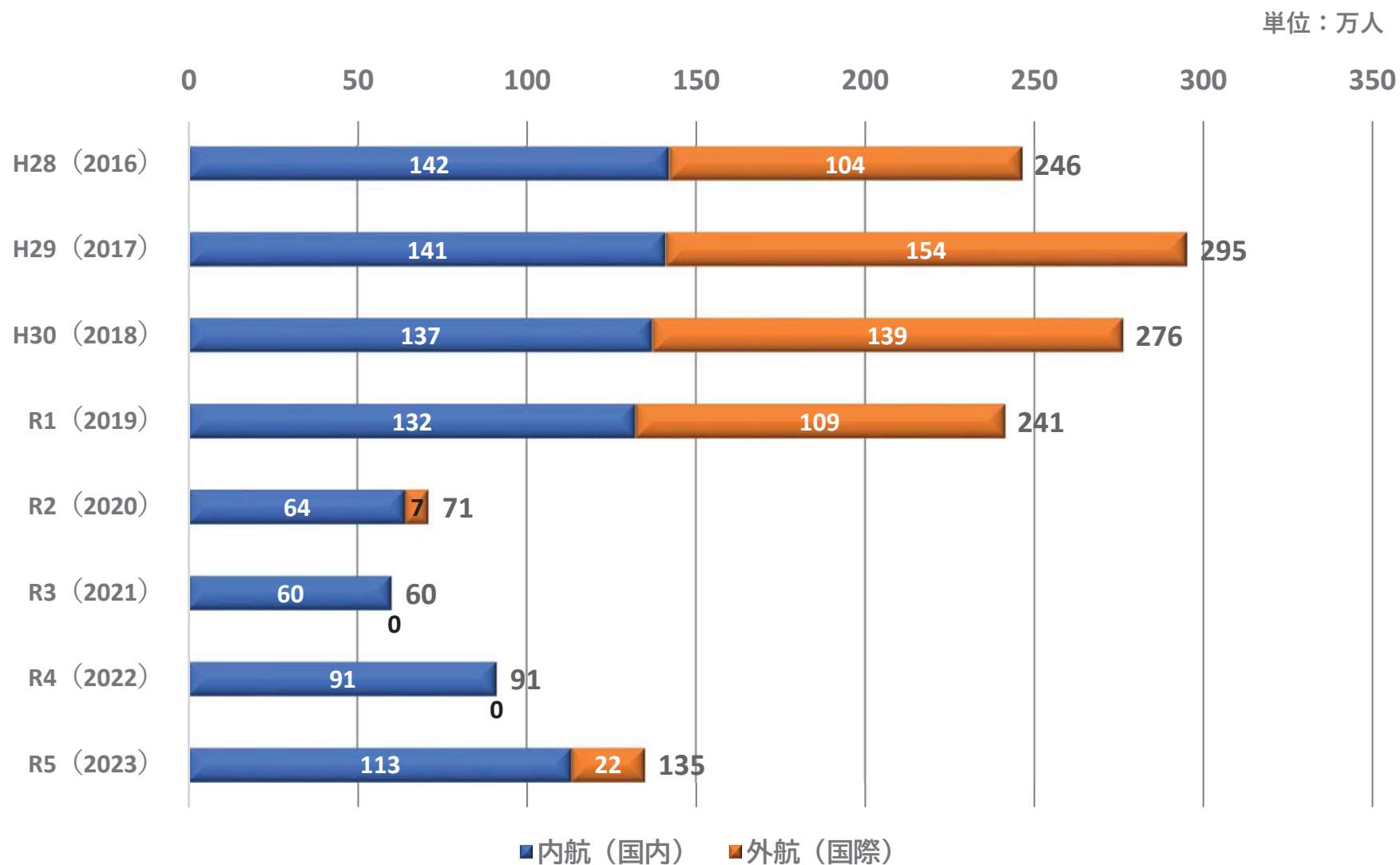
航路名	船種	運航事業者	寄港地
長崎ー福江(下五島)	フェリー ジェットフォイル	九州商船(株)	福江港、奈良尾、奈留島
長崎ー有川(上五島)	高速船	九州商船(株)	有川
長崎ー鯛ノ浦(上五島)	高速船	五島産業汽船	鯛ノ浦
長崎ー高島	旅客船	野母商船(株)	伊王島、高島
長崎ー福江(下五島)	RORO船	五島汽船協業組合	福江、奈良尾
釜山航路	コンテナ船	高麗海運 長綿商船	釜山、熊本、八代、川内



資料提供：長崎県港湾課

1 長崎港の概要

(5) 長崎港における乗降人員数

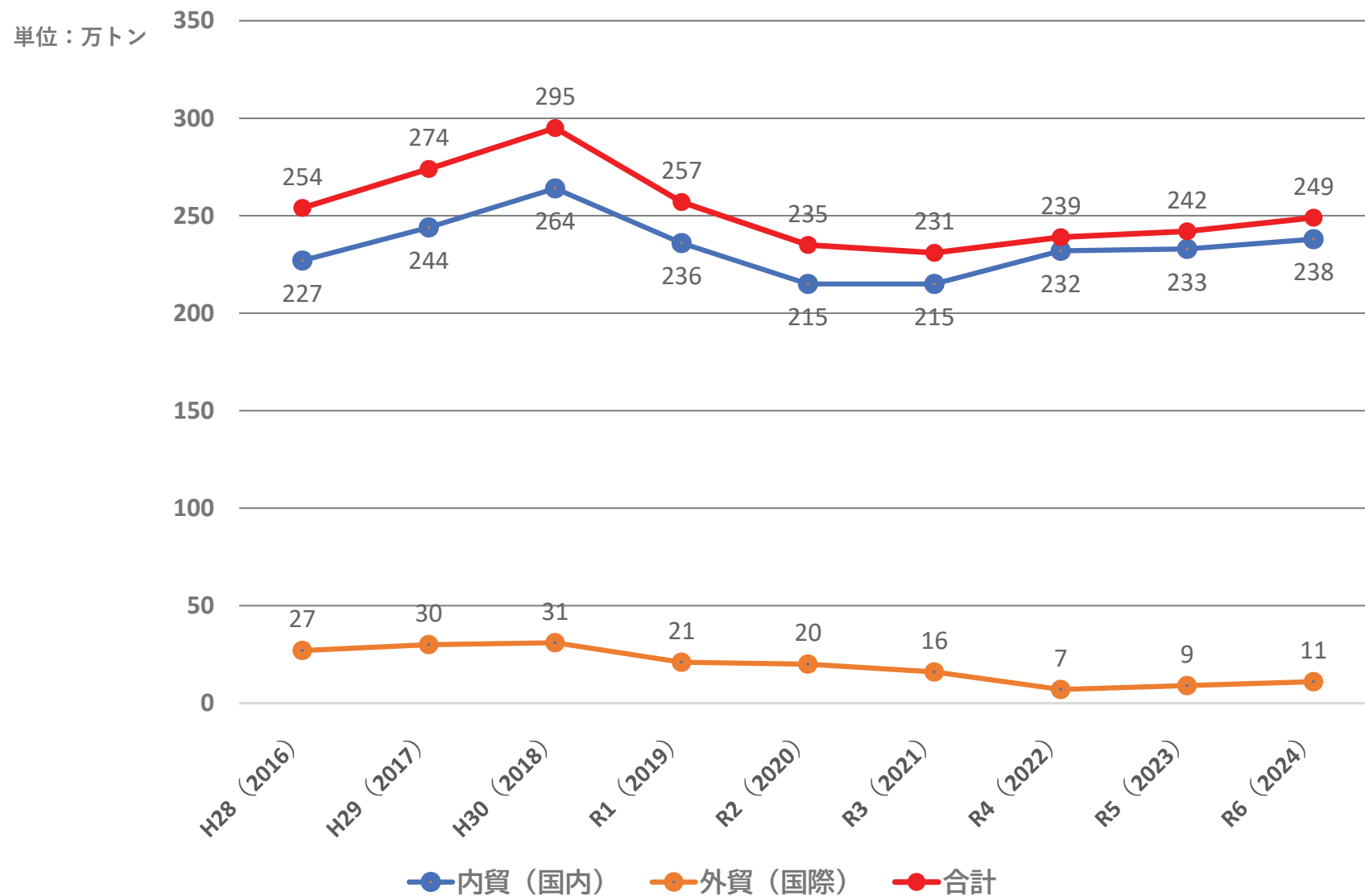


※内航：日本国内を往来する航路
外航：日本と外国を往来する航路

出典：港湾取扱貨物量等の現況（国土交通省）

1 長崎港の概要

(6) 取扱貨物量の推移



※内貿：日本国内の海上輸送
外貿：日本国内と国外との間の貿易

出典：港湾取扱貨物量等の現況（国土交通省）

1 長崎港の概要

(7) 長崎港のクルーズ船寄港推移



2 長崎港周辺整備の経過

目次

1 長崎港の概要

2 長崎港周辺整備の経過

3 今後の計画

2 長崎港周辺整備の経過

(1) 歴史年表

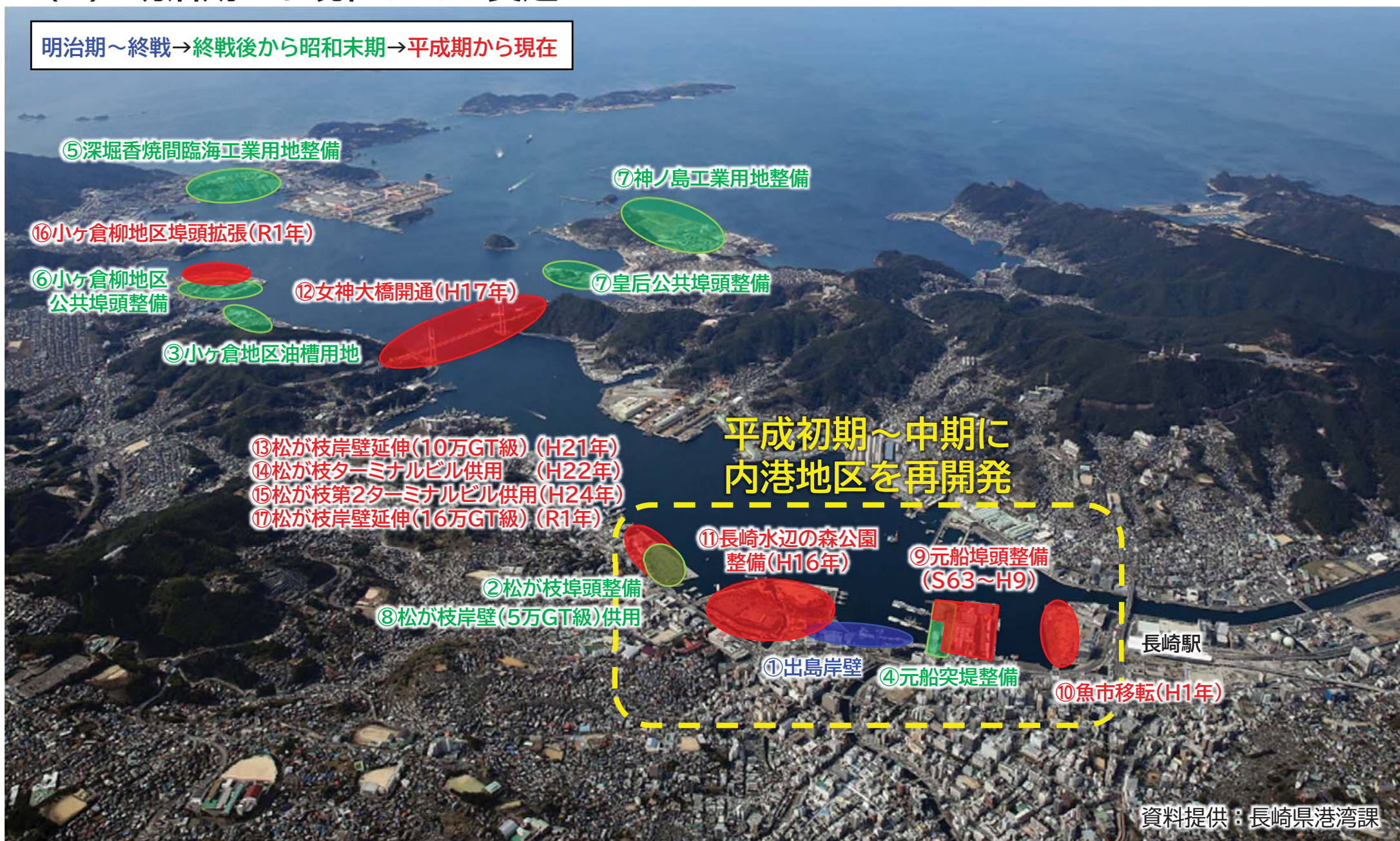
年	主な出来事	年	主な出来事
1571 (元亀2)	長崎開港(ポルトガル船が長崎入港)	1988 (S63)	長崎港内港再開発事業に着手
1907 (M40)	長崎港が長崎市管理となる	1988 (S63) ～	⑨元船埠頭整備(ターミナル、上屋等整備) (1988～1997)
1923 (T12)	①出島岸壁完成	1989 (H1)	⑩魚市場移転(長崎地区→三重地区)
1948 (S23)	長崎港を長崎市より長崎県に移管	2004 (H16)	⑪長崎水辺の森公園完成
1951 (S26)	重要港湾に指定	2005 (H17)	⑫女神大橋供用開始
1960 (S35)	②松が枝埠頭整備	2009 (H21)	⑬松が枝岸壁10万GT級に延伸【360m】
1962 (S37)	③小ヶ倉地区油槽用地造成	2010 (H22)	⑭松が枝ターミナルビル供用
1964 (S39)	④元船突堤整備	2012 (H24)	⑮松が枝第2ターミナルビル供用
1969 (S44)	⑤深堀香焼地区臨海工業用地造成	2019 (R1)	⑯小ヶ倉柳埠頭拡張完了
1972 (S47)	⑥小ヶ倉柳地区公共埠頭整備	2019 (R1)	⑰松が枝岸壁延伸(16万GT級)
1982 (S57)	⑦皇后公共埠頭、神ノ島地区工業用地造成	2020 (R2)	松が枝岸壁2バース化着手【410m×2】
1985 (S60)	⑧松が枝岸壁(5万GT級)供用 【275m】	2021 (R3)	開港450周年
1986 (S61)	ナガサキ・アーバン・ルネッサンス 2001構想の策定	※○数字の出来事は次ページに位置を示しています。	

()内は年号表記。M:明治、T:大正、S:昭和、H:平成、R:令和

2 長崎港周辺整備の経過

(2) 明治期から現在までの変遷

明治期～終戦→終戦後から昭和末期→平成期から現在



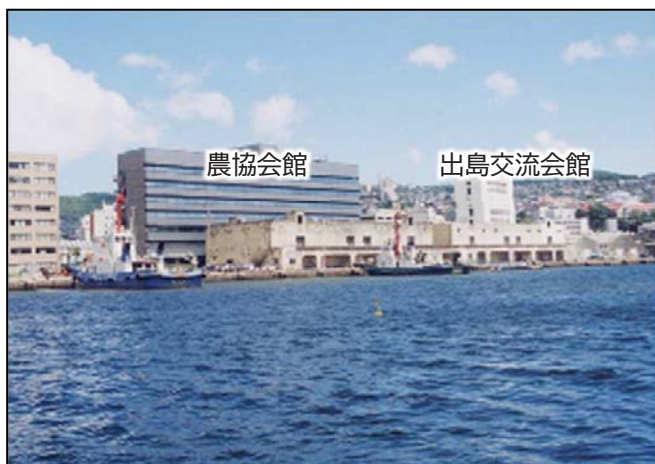
資料提供：長崎県港湾課

2 長崎港周辺整備の経過

(3) アーバンルネッサンス構想について

昭和50年代の長崎港は・・・

- ・工場や倉庫が立ち並び、市民の利用が乏しく港への眺望が遮られるなど、市民の日常から物理的、心理的に離れた存在となっていた。
- ・長崎市街地においても、平地が少ないことから、都市機能の過度な集中や幹線道路の慢性的渋滞、オープンスペースの不足が生じていた。



平成10年頃の出島ワープ付近の写真



資料提供：長崎県港湾課

昭和50年頃の長崎県美術館付近の写真

2 長崎港周辺整備の経過

昭和61年3月

「ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想」を
策定

ア 範囲：長崎都心・臨海地帯

長崎市松山町～茂里町～長崎駅前～元船地区～
松が枝地区に至る約112ha

イ 基本理念

- ・安全、快適で文化的な生活が享受できる人間環境都市
- ・地域経済活力のある高次産業都市
- ・国際社会に開かれた平和交流都市

ウ 概要

- ・長崎再生のための都市経営戦略
- ・都心臨海地帯の再開発整備の基本方針
- ・5つの戦略プロジェクト
- ・交通ネットワークの整備 など



出典：ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想パンフレット

2 長崎港周辺整備の経過

(4) 長崎港内港再開発事業

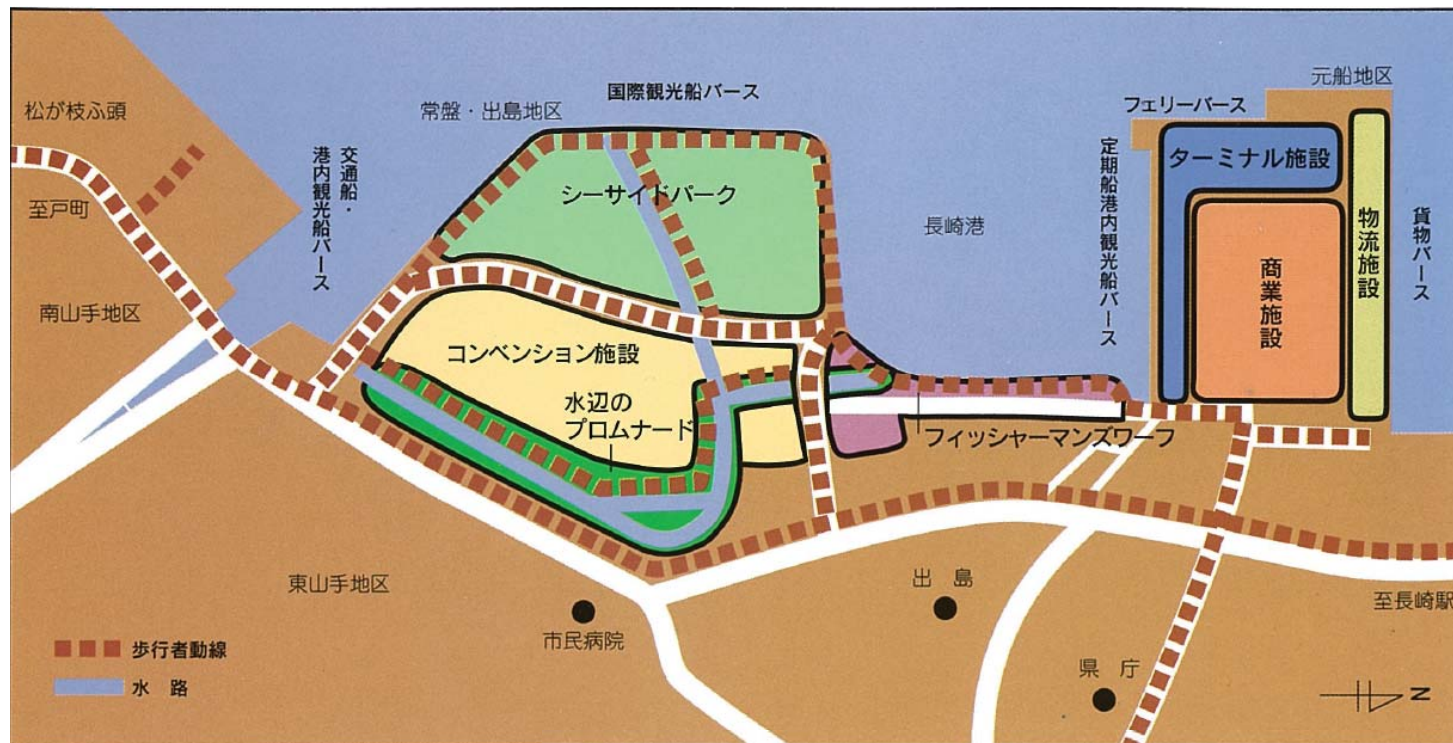
- ・本構想の先行プロジェクトとして、元船地区と常盤・出島地区の再開発事業に着手
⇒ **長崎港内港再開発事業**

【元船地区】新しい時代をつくる、人・モノの交流拠点

- ・長崎港ターミナルビル ・B棟(貨物上屋) ・C棟(貨物上屋・ドラゴンpromナード)
- ・立体駐車場 ・大型商業施設(夢彩都)

【常盤・出島地区】コンベンションの中核機能をもった、潤いのある空間

- ・長崎水辺の森公園 ・D棟(常盤ターミナル) ・出島ワーフ ・出島ハーバー



出典：ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想パンフレット

2 長崎港周辺整備の経過

イメージパース



出典：ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想パンフレット

2 長崎港周辺整備の経過

(5) 長崎港内港再開発事業の概要 ア 沿革

昭和61年 ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想策定

昭和63年 長崎港内港再開発事業に着手

平成 7年 元船B棟上屋供用開始
長崎港ターミナルビル供用開始

平成 9年 元船C棟上屋供用開始

平成10年 ドラゴンプロムナード供用開始

平成12年 大型商業施設「夢彩都」開業
出島ワーフ供用開始

平成14年 出島ハーバー供用開始

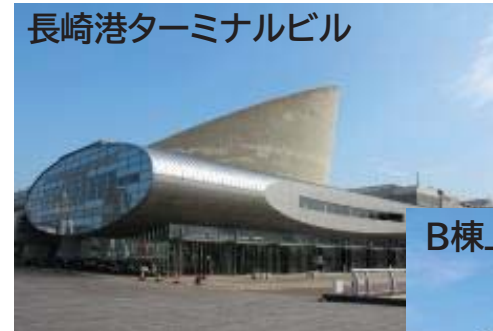
平成16年 長崎水辺の森公園供用開始

平成21年 松が枝岸壁を10万GT級に延伸

平成22年 松が枝第1ターミナル供用

平成24年 松が枝第2ターミナル供用(CIQターミナル)

長崎港ターミナルビル



B棟上屋



C棟上屋・ドラゴンプロムナード



松が枝岸壁・ターミナル

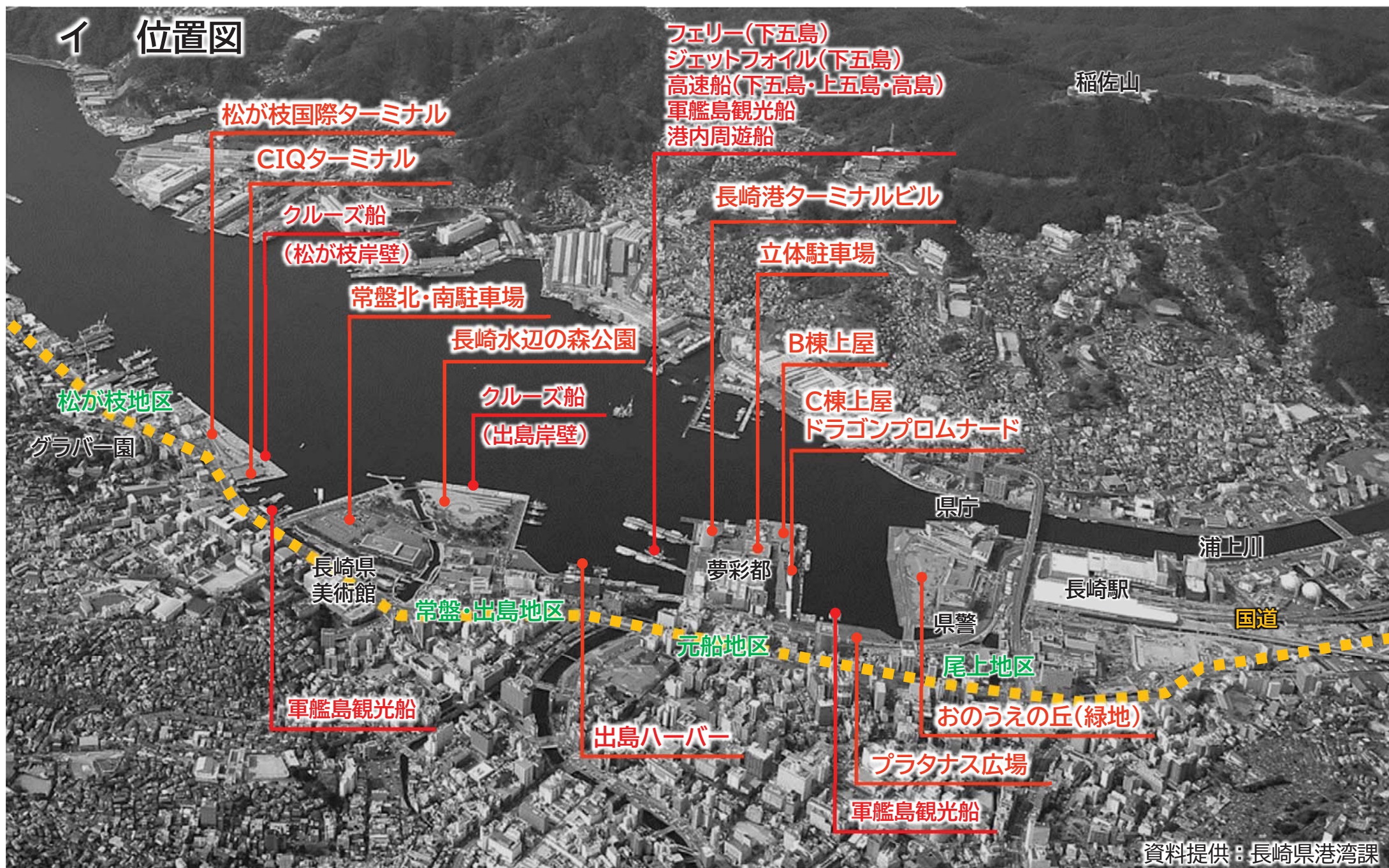


長崎水辺の森公園



資料提供：長崎県港湾課

2 長崎港周辺整備の経過



2 長崎港周辺整備の経過

ウ 元船地区の主な港湾施設

長崎港ターミナルビル

平成7年11月供用開始



B棟上屋

平成7年1月供用開始



C棟上屋

平成9年6月供用開始



※ドラゴンプロムナードは平成10年4月に供用開始

長崎港ターミナルビル駐車場 平成11年4月供用開始



資料提供：長崎県港湾課

2 長崎港周辺整備の経過

エ ドラゴンpromナード

- ・賑わい空間として位置づけられた元船地区中央部分に、一般市民が集い、憩い、イベントを開催するなどの多目的な利用に配慮したオープンスペースとして「海辺の見えるpromナード(愛称:ドラゴンpromナード)」を平成10年に整備。
- ・整備にあたっては、流通機能を担うC棟上屋の屋上部分を改修。

ドラゴンpromナード

平成10年4月供用開始

構造等 鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階建て(上屋部分含む)

延床面積 10,630m² 展望デッキ 地上高20m オレンジ球 直径約19m

※白・緑の屋根とオレンジ球は長崎伝統の「龍踊」をモチーフにしている



資料提供：長崎県港湾課

2 長崎港周辺整備の経過

オ 長崎出島ハーバー・出島ワーフ

- ・港らしい雰囲気をもった賑わい空間として、臨海型商業施設「長崎出島ワーフ」が平成12年に開業。
- ・平成14年に前面岸壁に「長崎出島ハーバー」を整備。平成17年には海の駅※に認定。



※海の駅：プレジャーボートによる来訪者のために、「いつでも、誰でも、気軽に、安心して立ち寄り、利用でき、憩える港」
(設置認定規則抜粋)

第5条 海の駅の施設要件は、次のとおりとする。

- ①来訪者が利用できる船舶係留施設があること
- ②海の駅に関する情報提供等のためにガイドを配置していること
- ③来訪者が利用できるトイレを有すること

第6条第2項

認定委員会は、申請内容を審査し、本規則第5条の施設要件をみたし、申請者の事業内容等が海の駅ネットワークの活動の目的・趣旨に適合する場合、当該施設を海の駅として認定する。



資料提供：長崎県港湾課

2 長崎港周辺整備の経過

【長崎出島ワーフ（平成12年4月開業）】

海と港の景観を楽しめるフィッシャーマンズワーフや海をテーマとした各種商業施設

○開発・運営：(株)長崎出島ワーフ（地元企業21社の出資により平成11年5月設立）

○施設概要：建築面積約1,500㎡、延床面積約2,500㎡

○整備目的：ウォーターフロントの市民や観光客の賑わいの場

○その他：岸壁の石張、ボードウォーク等は県、中央広場のトイレは市が整備



出典：長崎港内港再開発事業パンフレット



資料提供：長崎県港湾課

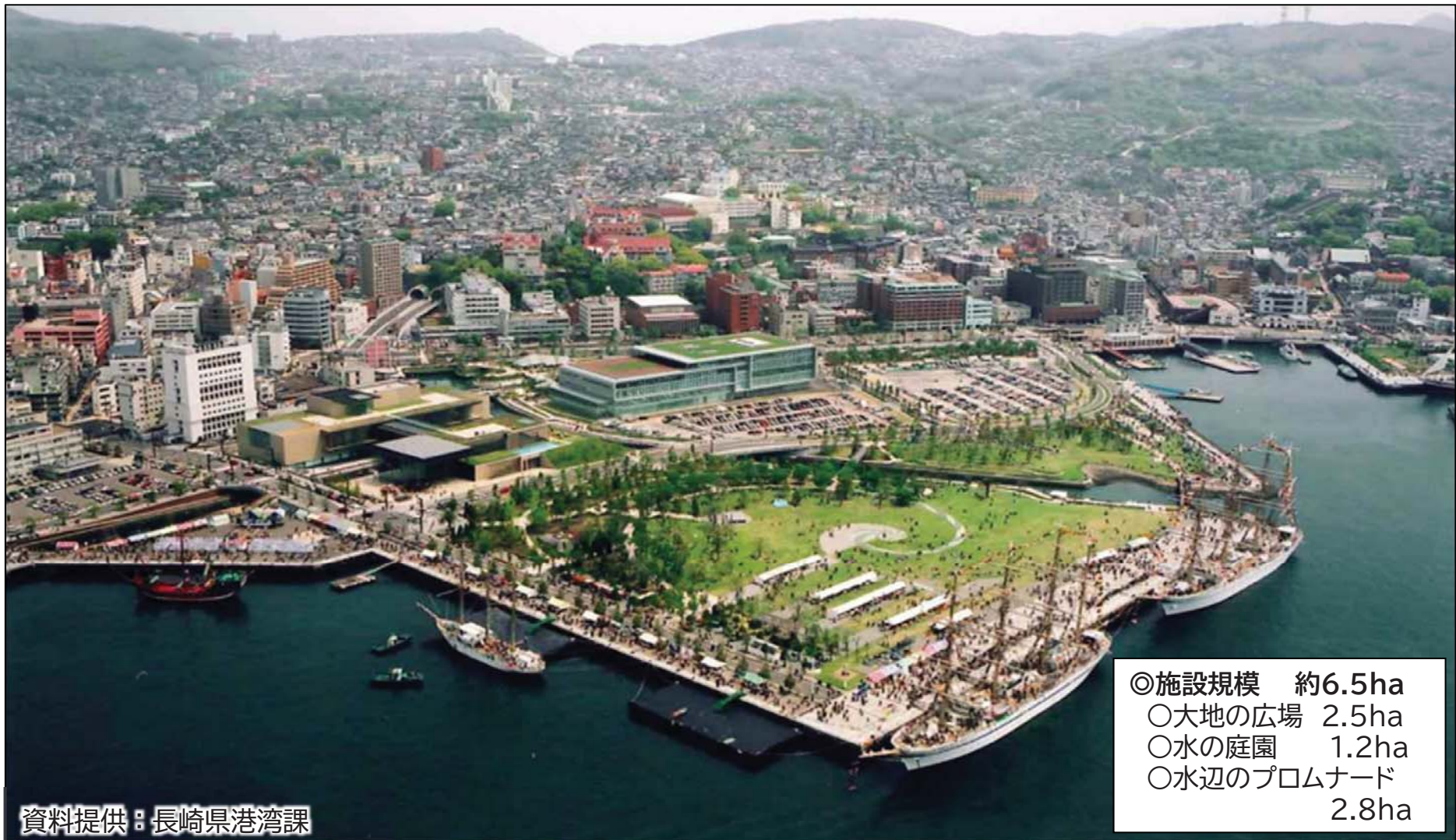
港湾管理者（県）における今後の施設整備について

長崎駅から松が枝地区まで、バイエリアの歩行者動線となるボードウォーク等は、地元利用者や観光客等の安全性確保を図るため適切に維持・補修を行っていく。

2 長崎港周辺整備の経過

カ 水辺の森公園

- ・平成16年に長崎港のシンボル緑地として長崎水辺の森公園を整備。
- ・公園からは長崎港のランドマークである女神大橋への眺望を確保するとともに、ボリュームのある緑や、湧水を活用した水とふれあえる施設、運河と歩道橋群などが存在。



2 長崎港周辺整備の経過

キ 松が枝国際観光船埠頭

- ・平成22年に第1ターミナル、平成24年に第2ターミナル(CIQ)が完成。
- ・ターミナルビルと緑地を一体化した「ハレ(非日常)」と「ケ(日常)」の共存する緑の空間として整備。
- ・屋上緑化を施すとともに、多数の天窓を配置し照明設備数を節減。



資料提供：長崎県港湾課

2 長崎港周辺整備の経過

クルーズ船お見送り状況



【クルーズ船お見送りについて】

○長崎港クルーズ船受入委員会により、主に小中高校等によるブラスバンド演奏など、年80回程度実施

屋上緑地



ペーロン大会時の賑わい



資料提供：長崎県港湾課

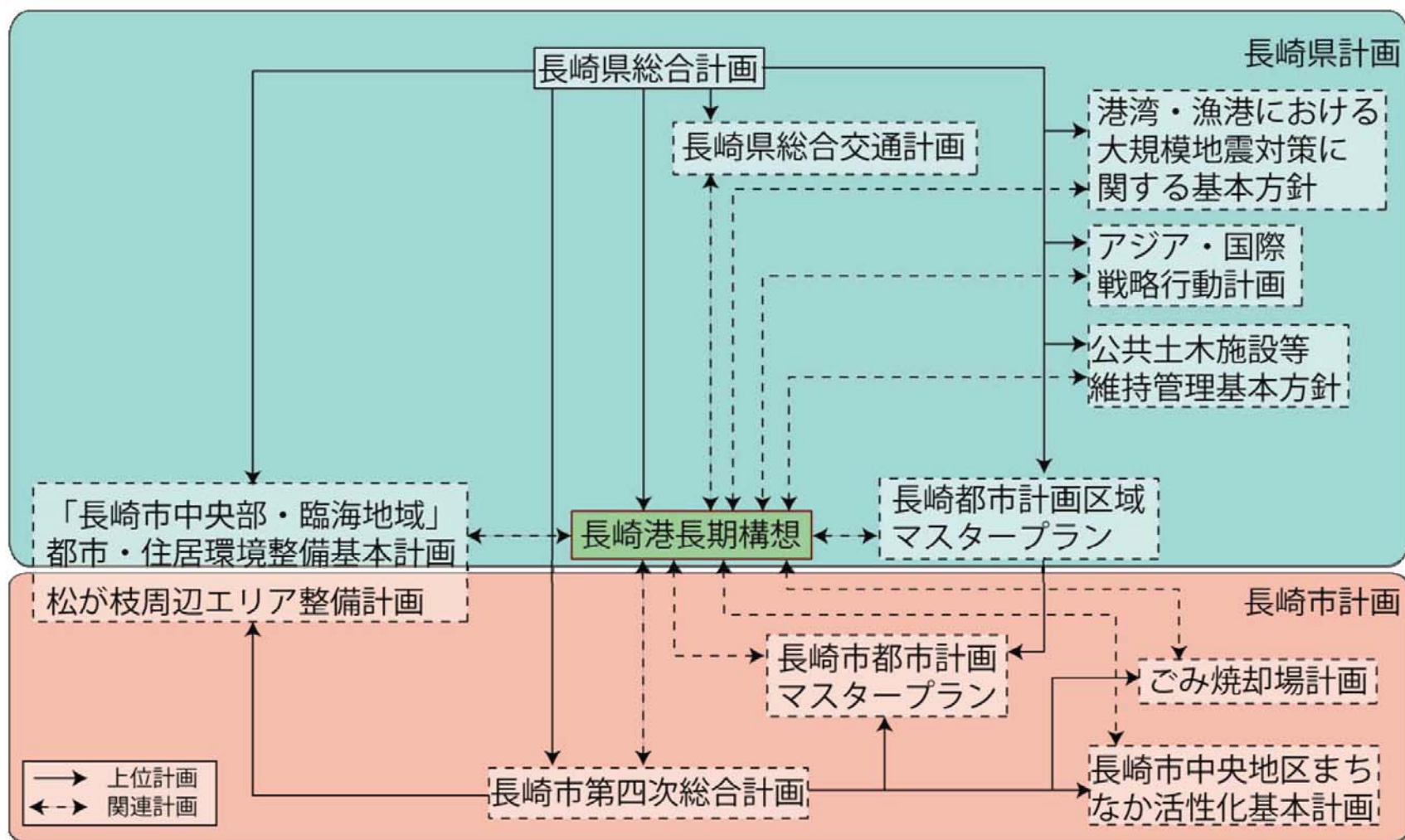
目次

- 1 長崎港の概要
- 2 長崎港周辺整備の経過
- 3 今後の計画

3 今後の計画

(1) 長崎港長期構想(平成24年3月策定)

長崎港の20年～30年後の将来像や目標、それらを実現するための施策等、長期的な港湾の指針を示したものの。



上位・関連計画関係図

出典:長崎港長期構想

3 今後の計画

ア 長崎港の課題（抜粋）

（ア）客船受入れによる観光振興

- 客船への対応の体制の強化
- 海上交通と陸上交通との連携
- 背後のまちづくりとの連携

（イ）尾上～元船地区周辺の空間形成

- 賑わい空間の創出
- 新駅舎と離島航路との接続



長崎港長期構想

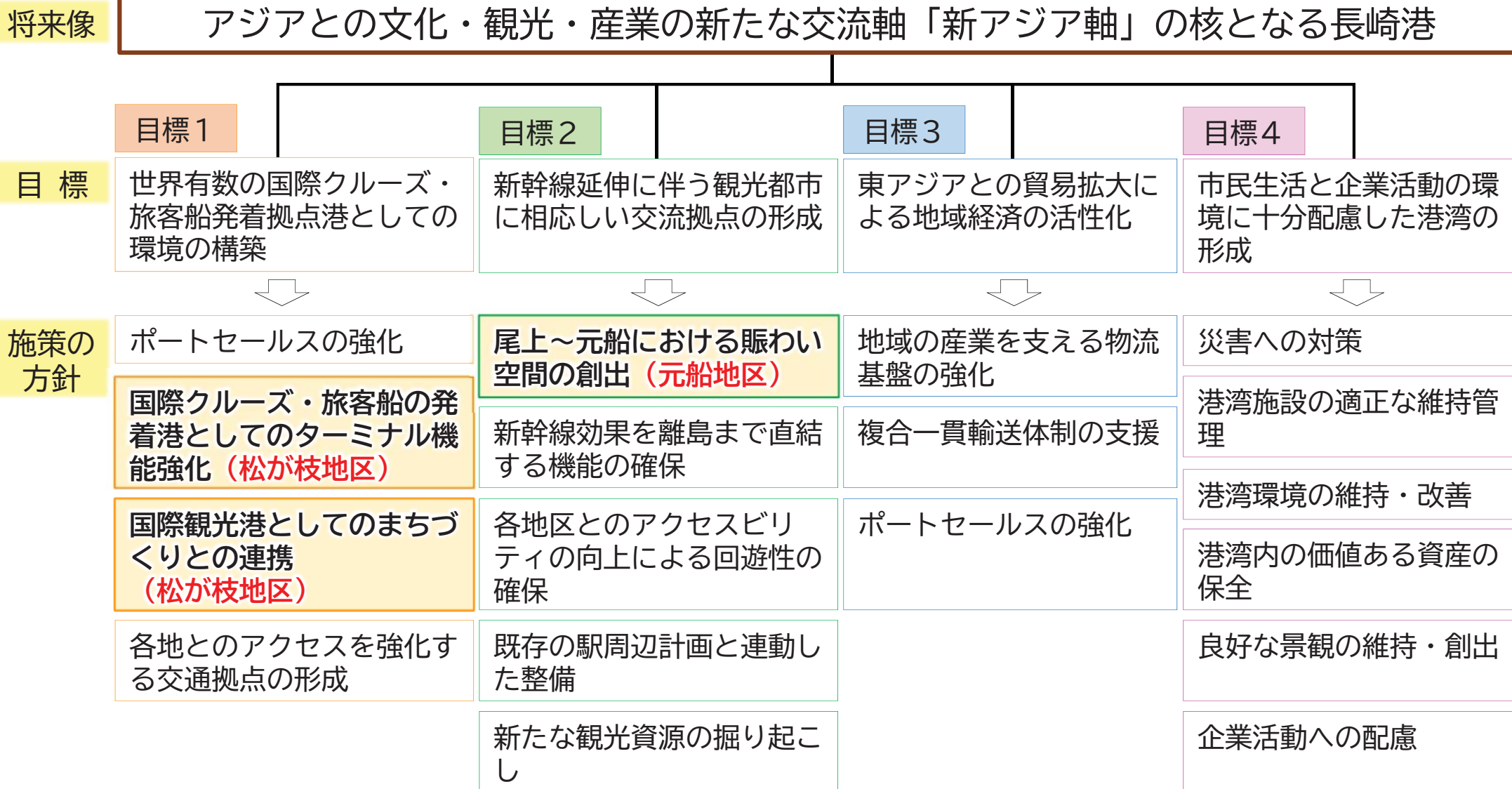


平成 24 年 3 月
長崎港長期構想検討委員会

出典：長崎港長期構想

3 今後の計画

イ 目標等の体系



3 今後の計画

(2) 長崎港の観光交流整備に向けて

内港地区周辺では、長崎駅周辺再整備や長崎スタジアムシティが開業し、大きな変革の時期を迎えている。



3 今後の計画

(3) 長崎港松が枝地区旅客船ターミナル整備事業

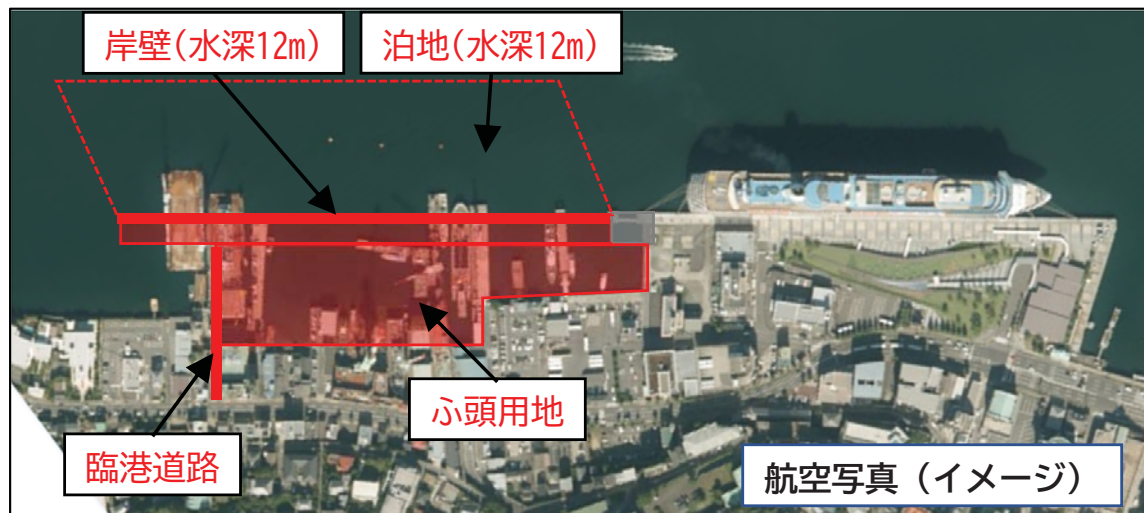
ア 目的

※現時点で公表されている内容であり、今後変更となる可能性があります。

長崎港松が枝地区において、大型クルーズ船に対応した岸壁（水深12m、延長410m）等の整備を行うことで、地域の経済活性化につなげるもの

イ 事業概要

施設	【国】岸壁(水深12m)：延長410m、泊地(水深12m)：1.3ha 【県】臨港道路：130m、ふ頭用地：2.7ha
事業期間	令和2年度～令和10年度
事業費	約172億円



3 今後の計画

(4) 松が枝周辺地区整備構想(令和5年11月策定)

松が枝国際観光船埠頭の2バース化の取組は、クルーズ船の受入拡大だけでなく、まちづくりにもつながり、地域の発展に大きく寄与することから、長崎県と長崎市において、地域住民や関係権利者などと意見交換を行いながら、松が枝周辺地区の土地利用の将来構想を策定するもの。

ア 松が枝地区の将来像

海の国際玄関口 ～歴史が繋ぐ・人が生み出す・まちが魅せる新ナガサキ～

イ 整備コンセプト

A クルーズ船の受入拠点となる国際ゲートウェイ機能の強化

海の国際玄関口として、クルーズ船2隻同時寄港に十分な入出国・税関審査ブース、ツアーバス駐車場等を確保し、インバウンドだけでなく発着港としても利用可能な基盤施設を強化する。

B 国内外の観光客の快適な移動を支える交通結節機能の強化

クルーズ船と陸上交通の接続を充実し、まちなかや南山手地区に円滑に移動できる各種交通と連携した利便性の高い交通結節機能を強化する。

C 来訪者に充実したサービスと特別な空間を提供する観光・交流機能の強化

南山手地区やまちなかとの回遊性を高めて繋がりを強化するとともに、歴史的価値の高いみなとまちの魅力の磨き上げを図り、観光・交流機能を強化する。

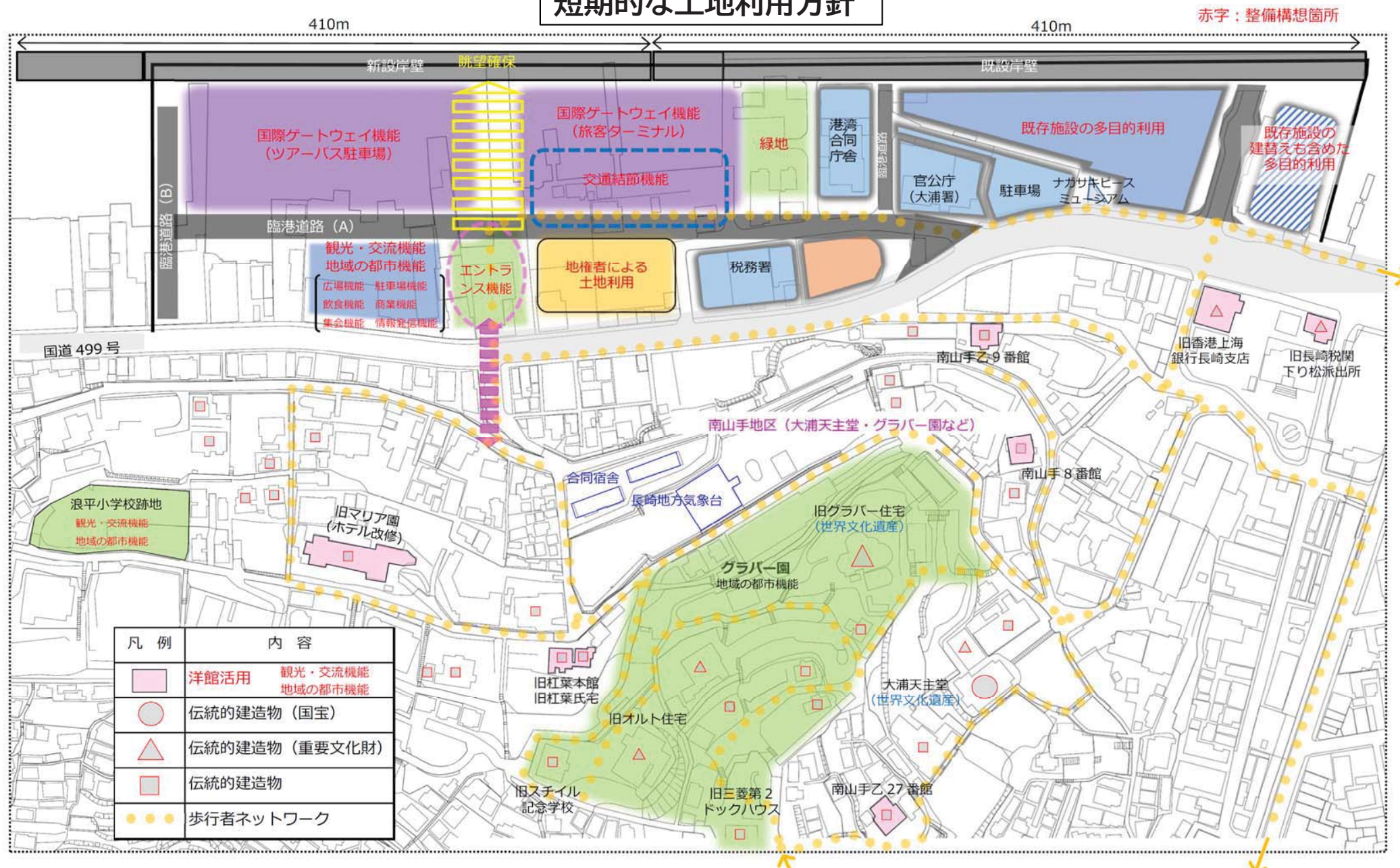
D 地域の安心快適な暮らしを支える都市機能の強化

利便性の高い公共交通ネットワークの強化や生活利便施設等の立地誘導など周辺地域の多様な世代に配慮した地域の暮らしを支える都市機能を強化する。

出典：松が枝周辺地区整備構想

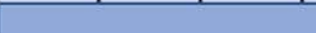
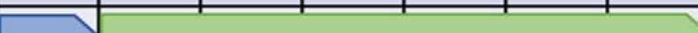
3 今後の計画

短期的な土地利用方針



出典：松が枝周辺地区整備構想

3 今後の計画

			整備スケジュール										
区分	施設名	主体	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15以降
港湾施設	岸壁・泊地	国											
	ふ頭用地	県											
	臨港道路 (岸壁接続)	県											
	臨港道路 (ターミナル接続)	県											
	新ターミナル	県 PPPの活用を想定											
	駐車場												
	緑地												
	第1ターミナル 活用												
	第2ターミナル 活用												
事業 隣接地	エントランス 広場	市											
	上記以外 の用地	県 民間											
南山手 地区	洋館等活用	市 民間											
	浪平小学校跡地活用												
	その他の長崎 歴まちグランド デザインに基 づく取組												

青：調査・設計・調整・法令等手続き オレンジ：施設整備 緑：歴史的風致の維持向上を図る取り組み 点線：中長期的検討

※現時点で公表されている内容であり、今後変更となる可能性があります。

出典：松が枝周辺地区整備構想

3 今後の計画

(5) 長崎港元船地区整備構想(令和6年3月策定)

○老朽化や交通混雑への対応、安定的かつ利便性の高い船舶の利用などの課題解決を図る港湾機能の再編

○周辺地区と調和したにぎわいのある「みなとまちづくり」など「長崎の海の玄関口」としてのありたい姿を整理

〈エリアゾーニング〉



〈コンセプト〉

長崎元船 *OASIS*

～海と船の楽しさを感じる、島と食と人との交流空間～

【 OASIS 】

Ocean : 海 (長崎港)

Amuse : お楽しみ

Ship : 船

Seafood : 海産物

Intersect : 交差する

Island : 島

Space : 空間

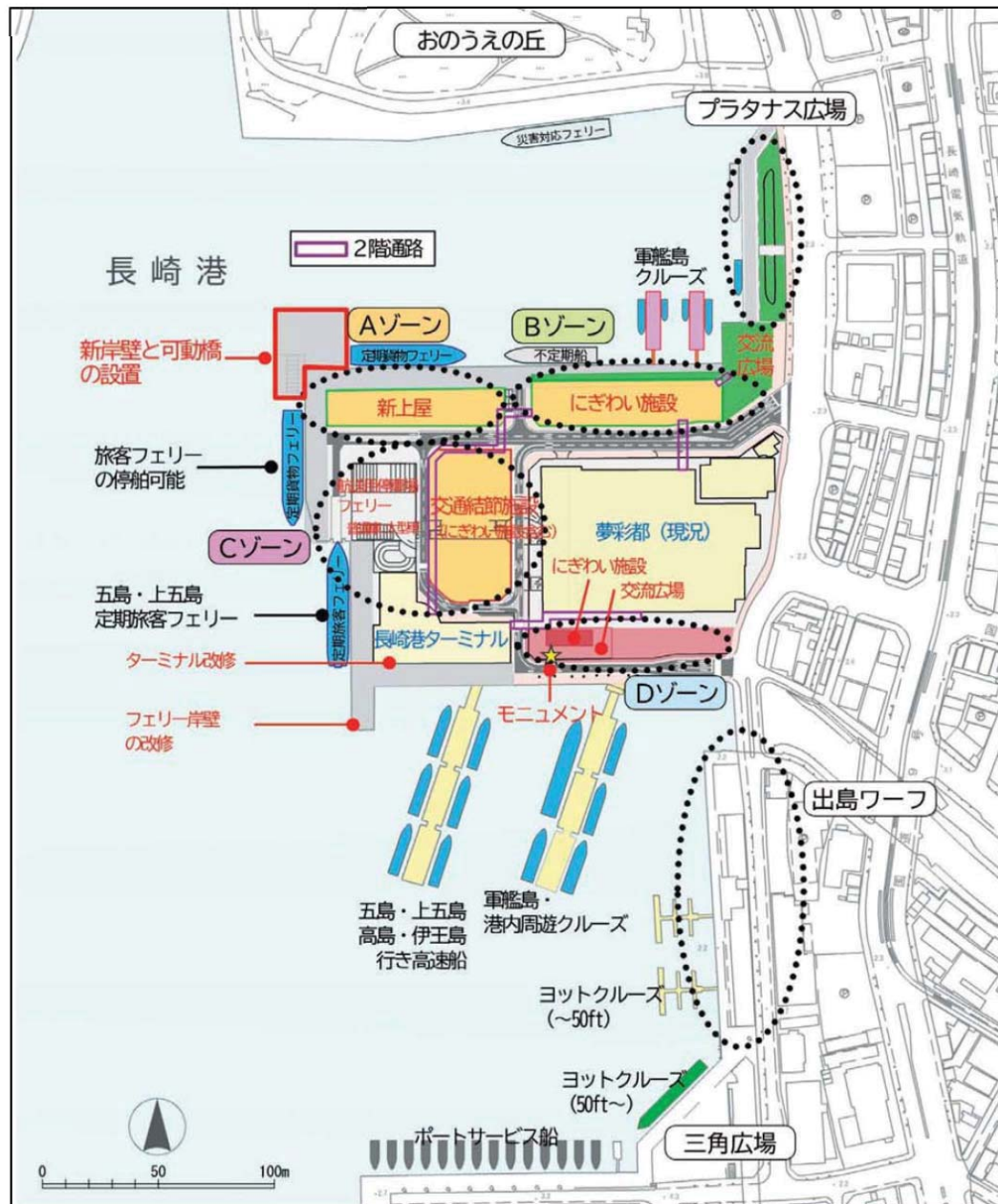
整備のポイント

- 1 暮らしを支える国内ターミナル機能等の強化による利便性向上
- 2 臨港部を活かした観光・交流機能等によるにぎわいの創出
- 3 車両や歩行者にとって優しいみちづくりによる回遊性向上
- 4 港、海が感じられる景観による魅力向上
- 5 官民が連携した整備、運営、維持管理の実施によるおもてなしの向上

出典：長崎港元船地区整備構想

3 今後の計画

〈全体配置計画〉



Aゾーン

- ◆ 新たに岸壁と可動橋を配置し、定期貨物フェリーをシフトすることでターミナル機能を集約
- ◆ 上屋を設置し、上屋の屋上には多目的機能(にぎわい施設や展望、緑地・広場機能など)の導入を目指す

Bゾーン

- ◆ 歩行者回遊性を向上するための設備(スロープ、エレベーター、エスカレーター)を配置
- ◆ 観光クルーズ船の発着機能を一部集約

Cゾーン

- ◆ 定期旅客フェリーの車両停車場を配置
- ◆ 必要台数を確保した駐車場を新たに配置し、必要に応じ、にぎわい施設との複合化や併設化を想定

Dゾーン

- ◆ 長崎水辺の森公園や出島ワーフ、県庁舎跡地やまちなかとの連続性を考慮した広場空間を配置
- ◆ 長崎くんちの御旅所やイベント等で活用できる空間、憩い空間を配置

【全体】

- ◆ 2階レベル以上での地区内歩行者の移動円滑化を図る
- ◆ 道路拡幅や交差点改良により、交通の円滑化を高める
- ◆ 三角広場はイベント活用等が可能なオープンスペースとして活用
- ◆ 岸壁は大型ヨットや、屋形船等の寄港による活用促進
- ◆ ライトアップ等により、夜間景観に配慮
- ◆ 海が感じられる展望空間を配置

出典：長崎港元船地区整備構想

3 今後の計画



出典：長崎港元船地区整備構想